

「環境まちづくりプロジェクト」第3回ミーティング議事録

日時：平成28年7月16日(土) 14:00～16:40

場所：ブロッサムカフェ 3F ルーム A

出席者：竹原，久，中口，鈴木，森本，溝渕，多田，松井，麓，河井，高野，柳原，田中，今西，
福田，上田，水越，江口

配布資料： 1) 平成28年度学内研究助成金 年度別予算内訳
2) 「環境まちづくりプロジェクト」第二回ミーティング議事録
3) ウェブサイトの進捗紹介
4) 上田先生，江口先生，田中先生 講演資料

※予算資料については，別途メールでも配布の予定

14:00～14:10 プロジェクトリーダー挨拶および今後の活動について
理工学部 竹原幸生 教授

14:10～14:20 プロジェクトHPの立ち上げについて
理工学部 溝渕昭二 准教授

14:20～15:00 話題提供1 「近畿大学医学部移転と地域医療構想」
医学部 福田寛二教授，上田昌美 講師

-- 10分休憩 --

15:10～15:50 話題提供2 「水環境と微生物と人」
農学部 江口 充 教授

-- 10分休憩 --

16:00～16:40 話題提供3 「エリアイノベーションとまちづくり」
総合社会学部 田中晃代 准教授

16:40～16:50 結び
総合社会学部 久 隆浩 教授

17:00～18:40 頃 懇親会 (3F ルーム B)
軽食，立食形式，会費 2000 円

1. プロジェクト活動報告

- 1) 理工学部竹原教授より，学内研究助成金の執行計画が報告された。順応的に運用したいので，必要に応じて執行して欲しいとの案内があった。また次回開催のミーティングより，積極的に大学院生の聴講を参加させてほしいとの要望があった。総合理工学研究科では，「学際研究」・「課外セミナー」の一環として募集したいとの報告があった。
- 2) 本プロジェクトのウェブサイトの試作版について，理工学部の溝渕准教授より説明された。

SNS 等とのリンクは貼らず、近大広報部と連携しながら、地域との情報交流やメンバー間の情報共有に活用できるウェブサイトを目指す予定。すでに試作版が確認できる。

<<http://samurai.info.kindai.ac.jp/wordpress/machipro/>>

今後の予定としては、広報部や理工事務部と相談しながら、10月にはバージョン1を公開する予定。公開に向けて、コンテンツや内容についてぜひアイデアを寄せて欲しい。特に環境データや、文章・写真などを募集している。その後の懇親会場では、「まちあるきをテーマにした連載記事・写真」や「環境データのわかりやすい解説」といったアイデアも出ていた。

2. 話題提供

研究交流を目的として、3名の先生による講演が実施された。会場や懇親会場でも、ひとつの学問分野では推進しにくい今回の各講演テーマについて、様々な視点からの話しが展開され、環境まちづくりプロジェクトの進め方を含めた活発な議論がなされた。

- 1) 医学部の上田講師より「近畿大学医学部移転と地域医療構想」についてご説明いただいた。南大阪における唯一の大学病院としての位置づけや、大学周辺の都市の成り立ちから、地域医療システムの中で医学部病院が担う役割と、複合的な医療タウンの構想についてご紹介いただいた。質疑では、在宅医療者と医療機関をつなぐ情報システムのあり方や、病院の建物以外のまちの要素（買い物や移動）を含めたまちの構造が重要である点について意見が交わされた。また千葉県の柏市で、UR 所有の建物の一部を病院に改装した事例も紹介された。
- 2) 農学部 江口教授より水族環境学研究室の研究テーマを具体例に、養殖環境や干潟における物質循環機構、魚病原因微生物の生残機構解明や魚病を引き起こさない養殖環境（水づくり）の理解、さらにふな寿司を例にした有用微生物の探索など、幅広い内容を講演いただいた。質疑では、人と魚の腸内細菌にも話しが広がり、分野や学部を超えた議論が展開された。
- 3) 最後に総合社会学部 田中准教授より「エリアイノベーションとまちづくり」をテーマに、従来の都市計画（計画する人→つくる人→使う人）とは逆のプロセスから空間が出来るエリアイノベーションについて生野区の事例などを含めて解説いただいた。今あるインフラの活用プロセスにおいて「効率性が悪いが市民の満足度が高い事業」は行政の評価では無視されがちである。しかし使う人のニーズに合わせて改善を繰り返す参加型のリノベーションを通じて、「市民の満足度が高い事業を効率的に運用」できるなど、インフラ活用の本質に関する問題提起があった。

3. 懇親会

メンバー相互の交流を目的に、ルーム B にて懇親会が催された。16名の先生にご参加いただき大変な盛り上がりを見せた。前回発生した2,000円の余剰金については、次回の懇親会に充てる。

記録者：松井 一彰

プロジェクト代表者：竹原 幸生

プロジェクト代表者：久 隆浩